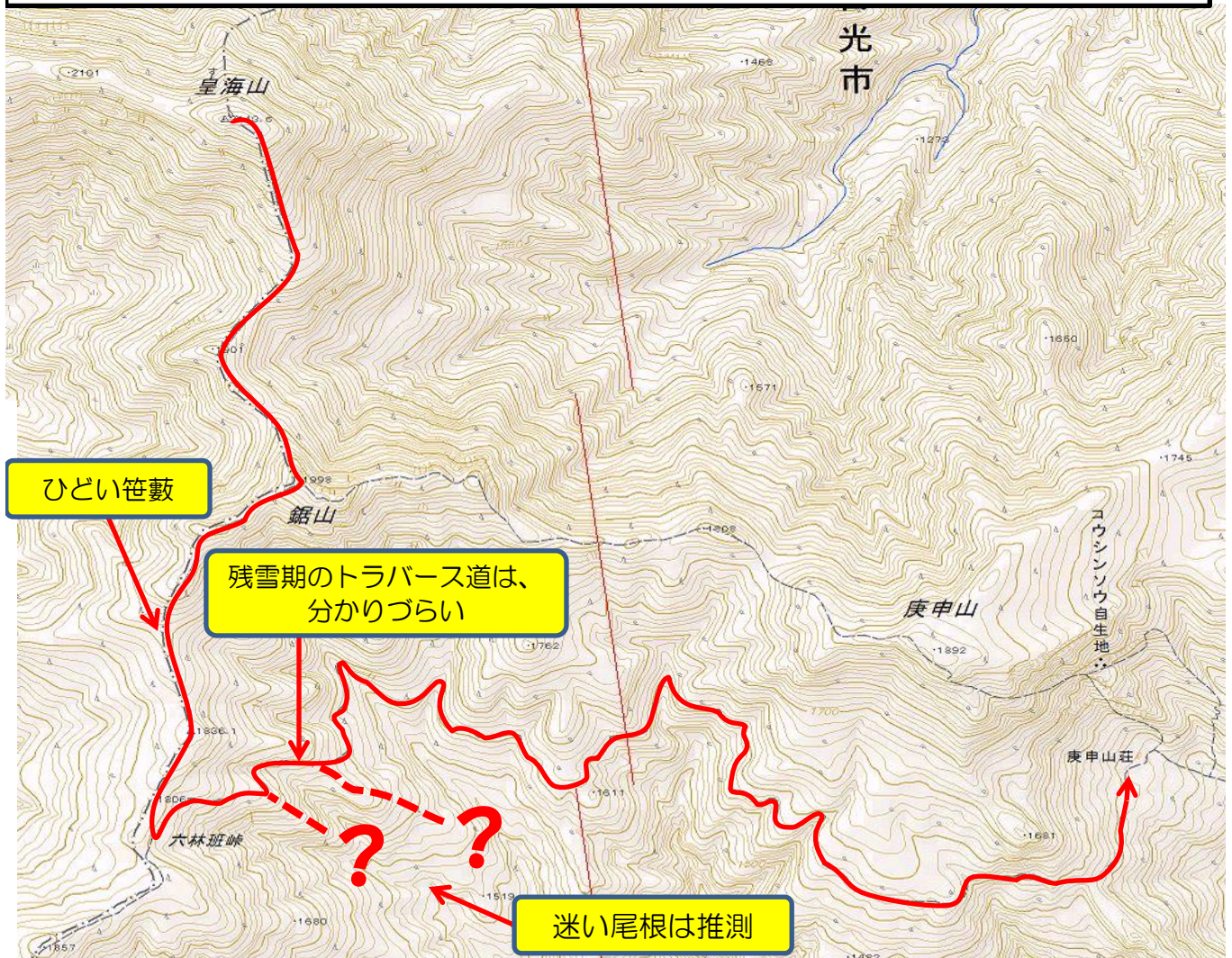


## 皇海山道迷い(2015年4月)

残雪期は道が隠れて、分かりづらい。特に尾根とは違って、トラバース道は尚更である。残雪上の足跡を頼りに進んでいくと途中で道がなくなった。セオリー通り、来た道を登り返した。もう一度、六林班峠からトラバースをやり直し、事なきを得た。



## 解説

鋸山～六林班峠のルートはすごい笹。背の高い笹原でほとんど登山道が分からない状態。峠までは尾根上なので、忠実に尾根上を辿り、六林班峠に着いた。問題はここからである。残雪期のトラバースルートはコースが不明瞭で、雪渓が横たわっていると、どの辺りから入ってよいか判断が難しい。トレースがあったので辿って行くと間違った尾根を下っていた。足跡が鹿のものだと気づいたときには高度約150m下ってしまった。焦った。悔やんでも仕方がないので、セオリーどおり来た道を登り返し、六林班峠まで戻った。もう一度、六林班峠からトラバースをやり直し事なきを得た。

残雪のトラバースルートは不明瞭で、くさった雪は歩きづらい。また沢の横断場所はガレており、思った以上に道が長かった。日没も迫るため、焦ってしまう。しかし、この事例では、「あれっ！おかしい」と思った初期の段階で、セオリー通り来た道に戻ったことがよかった。「当たり前のことを、当たり前のように行う。」これは、冷静でないとできない。